

会 議 録

会議の名称	第6回三田市協働のまちづくり推進委員会
開催の日時	令和7年8月26日（火）18時00分～20時00分
開催の場所	三田市役所本庁舎3階303AB会議室
出席した委員の氏名	清水委員長、澤田副委員長、 藤本委員、大東委員、益田委員、松田委員
欠席した委員の氏名	岡田委員
出席した庶務職員の職及び氏名	榎本市民生活部次長、小野地域づくり推進課長、 榎井地域づくり推進課副課長、足立地域づくり推進課職員
その他出席者	なし
傍聴者の人数	1人
議題	1 協働のまちづくり基本指針の改定について (1) 審議日程について (2) 地域へのヒアリング結果（概要）について (3) 三田市協働のまちづくり基本指針（改定案）について (4) 意見交換 2 その他 (1) 次回の日程について
会議の概要	・地域へのヒアリング結果について、事務局から説明、意見交換を行った。 ・三田市協働のまちづくり基本指針（改定案）について、事務局から説明、意見交換を行った。
公開・非公開の区分	公開
使用した資料	次第 ・資料1 審議日程について(案) ・資料2 地域へのヒアリング結果（概要）について ・資料3-1 三田市協働のまちづくり基本指針の構成（案）について ・資料3-2 第5回協働のまちづくり推進委員会指摘事項 委員名簿 配席表

1 開会

＜事務局の司会により開会＞

2 協議・報告事項について

＜事務局より会議の成立を確認＞

3 諮問にかかる議事

委員長により進行。

(1) 審議日程について

委員長： 委員会は後 2 回だが、何か意見等はあるか。

委員： 第 7 回、8 回の開始時間は 18 時からでよいか。

事務局： その通り。

(2) 地域へのヒアリング結果（概要）について

事務局： 既成市街地のヒアリング結果について説明。【資料 2】

委員： C 自治区・自治会と D まちづくり協議会は様々な活動をされているが、負担が大きく、疲弊しているような印象を受けた。役員も高齢化し、今後どうしていかが見通せず、課題になっていた。ふれあい協議会とまちづくり協議会の合併や、市との連携を考えなければ今後様々な活動の持続が難しいと思った。

A まちづくり協議会では C 自治区・自治会や D まちづくり協議会が単独で行っていることをグループで行っている。この地域ではまちづくり協議会は後方支援に特化している。また、何年も同じ体制で運営していたが、仕組みを変える時期がきていることは役員も認識している。

既成市街地のまちづくり協議会においては、このままでは活動を続けていくことが難しく、地域が疲弊するのではないかと感じた。様々な活動をされているのは素晴らしいが、次の担い手にどのように繋げるかが課題だと感じた。

委員： 基盤がしっかり引き継がれているように感じた。しかし、それ故に何かを変える、新しいことを始めるという感じはなく、例年に倣うという感じが強かった。何かを変えていくにはパワーが必要だが、そこが難しく感じた。現状は地域の祭りから新たな担い手を確保するしかないように思う。若い人が地域の活動に参加してくれることを望んでおられるように感じた。

委員長： 既成市街地だけでないかもしれないが、キーワードとして「地域や団体の疲弊」「担い手の問題」が課題としてあった。また組織の在り方や再編、新しい仕組みの在り方を検討する段階になっていることがわかった。

事務局： 農村地域のヒアリング結果について説明。

委員： いくつかのまちづくり協議会のヒアリングに行ったが、元気をもらうことが多かった。こちらが元気をもらえるような地域は、やはり地域自体も元気がある。ある地域は自分たちで県や国から補助金を獲得してきていると聞いた。「共助」をよく理解されている地域だと思った。行政に頼るのではなく「自分たちでできることは自分達でやろう」というエネルギーを感じた。また、移住対策も上手くいっている様だった。キーパーソンとなる人が様々な活動をしながら、地域も一緒

になって活動している。地区外、市外から来る人を歓迎するという風土もすごいと思った。そういった地域にも課題として担い手の問題はある。ヒアリングの中で他の地域との交流の機会が欲しいという意見があった。もっと自分の地域をよくしたいという想いがあった。どの地域も他の地域がどのようなことをしているのか気になっている。今までのまちづくり協議会交流会では、課題ごとに集まり協議するのみで、他の地域がどのような活動をしているかを知る機会がなかった。各まちづくり協議会でブースを出し、全体の発表もしながら、各自興味のあるブースを回り、お互いが交流できるような機会を事務局で作る必要があると思う。

委員： 農村地域においても働いている人が多く、連絡が難しいとのことだった。ニュータウン地域と連携し、活動されているのが素晴らしいと思った。

委員長： 他地域との連携が特徴的だと思った。地域を超えた市内での交流はよい刺激になっているのではないかと思う。担い手を今後どのように繋いでいくかという部分で、まずは自治区・自治会の役員をし、次にまちづくり協議会の役員など規模的なステップを踏んでいるようだった。そのような形でまちづくり協議会まで辿り着けばよいが、そもそも自治区・自治会の役員も受けてもらうのも大変だと聞いた。ただし、全体の役は敬遠される人が多い中で「この事業なら」とスポット的な担い手があり、そこに期待できるのではないかと思った。

農村地域でキーワードとなるのは「大学生」だと思う。様々な場所で学生が活動しているようだが、組織として繋がっているというより、個人として繋がっている状況だった。そのため継続的なつながりに期待できるかは難しいかもしれない。しかし、大学生や外部のサポーターが活動することで地域への刺激にもなると思う。

事業の見直しや整理について、今後どのような事業や活動をしていくかは他の地域でも課題になっている。また、情報交換の場を要望されていることに関して、他地域とつながっている団体はお互いに情報交換ができ、よい関係を築いている。このことを考えると様々な団体での情報交換の場を検討するべきだと思う。

「自助・共助・公助」の「共助」の部分をどのように記載するかを事務局で検討、作成していただきたい。

委員： 中間支援の NPO 法人と連携することで、個人では難しい国・県の補助金等の情報の獲得ができると思う。中間支援組織と地域が連携するというのも 1 つの方法だと思う。自治区・自治会やまちづくり協議会では中間支援の NPO 法人と連携するというイメージが沸きにくいかもしれない。連携することで新たな資金の確保につながる、という情報をどの地域にも提供する方がよいと思う。区長や会長個人の力量に頼るのは難しいと思う。地域の力と NPO 法人の力を合わせることで活動に広がりを持つかもしれない。

委員長： 現状まちづくり協議会が困った際に頼る先が市しかない状態だと思われる。まちづくり協議会が頼る先として NPO 法人があるのもよいかもしれない。

委員： ある地域では PTA で廃品回収ができなくなった際にリサイクル協議会を設立し、代わりに廃品回収を実施している。廃品回収を行うことで市の補助を受けている。PTA 単独では実施できないが、まちづくり協議会や他の団体と協力しながら実施している。このような方法もあるということをご地域と交流した際に共有すると、

他の地域も活動しやすくなるかもしれない。

委員長： そういったアイデアや方法があるということをもっと知ってもらうことが大切だと思う。そういった意味でも交流会は必要だと思う。交流会で 19 団体すべてが同日に集まってもらうのは難しいかもしれない。規模なども検討する必要があるかもしれない。

副委員長： それぞれの地域に特徴があり、横展開した方がよいケースもある。自治区・自治会が高齢化していく中で、まちづくり協議会がプラットフォームとなってアイデアを出し、様々な活動をしていくのもいいが、それを他のまちづくり協議会と横で繋ぐことで「他地域でやっていることは自分の地域でもできるかもしれない」という気づきがあればよい。そこで NPO 法人や市民活動団体がまちづくり協議会と連携し、事業をまとめて一緒に行うなどの広がりがあればよいと思う。市民活動団体だけではフィールドがない。しかし、まちづくり協議会はフィールドがあるが実動員が少ない。この辺りの意味合いを協働事業提案制度等の活動支援とまちづくり協議会の交流会で位置づけられると面白いと思う。今は市民活動団体ばかりつながりがあるような状態だが、ここにまちづくり協議会が参加できればよいと思う。

委員長： 横展開できれば面白いと思う。

副委員長： 同じエリアで横展開をするが、少し性質の違う中間支援組織とフィールドやアクションを繋いでいくとよい関係性が築けるのではないかと思う。

委員長： 中間支援組織として市民活動推進プラザになるのか、他の団体を探すのか、様々な可能性が見えてくるのではないかと思う。団体をコーディネートしてくれる組織を育てないといけないかもしれない。

事務局： ニュータウン地域のヒアリング結果について説明。

副委員長： ポータルサイトをされている地域があったが、ニュータウンでは仕事を辞められた方が地域活動に参加されていて、そういった方たちの持つ可能性がまちづくりに活かされているように思う。

委員長： 地域人材の方の経験を上手く反映されている。運用が上手くできているところは最初の仕掛けがよかったのかもしれない。新しい技術・手段を積極的に取り入れられ、上手く活用されている。

まちづくり協議会、ふれあい協議会、自治区・自治会での様々な団体での連携の仕方も大切だと思う。

委員： 今までは子ども向けのイベントをするとたくさんの子どもが来ていた。しかし、今は子どもが集まらないとのことだった。まちづくり協議会のイベントに参加したが、役員の方が写真を撮ったり、取材されたりと熱心に活動していることが実感できた。

(3) 三田市協働のまちづくり基本指針の構成（案）について

事務局： 三田市協働のまちづくり基本指針の構成（案）について説明。【資料 3-1】【資料 3-2】

委員長： 今回のヒアリング結果はⅢの 4 に記載される予定か。

事務局： 諸課題についてはⅡの 2 に記載する予定。地域活動の状況についてはⅢの 4 で

記載することで考えている。

- 委員 長： 構成や盛り込むべき内容について要望、意見を願う。
- 委員 員： 一部の地域のヒアリング結果が組み込まれていないがどうか。
- 事務局 長： 課題については記載したいと思う。地域の人的な話があったため、記載するには難しい。記載できる内容は指針に記載していく予定である。
- 委員 員： ヒアリングしたすべての地域の回答が記載されるのであれば、記載されない地域は不快に思うかもしれない。
- 事務局 長： ご協力いただいた内容については何かしらの形で記載したいと思う。
- 委員 員： その地域の記載できない人的な話においても、何らかの課題があったのでそうになっていると思う。その課題を拾うことが大切ではないか。
- 事務局 長： あるまちづくり協議会では長く役員を担っている人がおり、多くの行事をしていた。そのために次の会長が見つからない状態になっていた。また、いざ役員を代わってみると様々な行事があり、役員の負担は多く、次の担い手が見つからない。そういった問題から担い手不足が生じている。課題としては他の地域に共通している部分があると思うので、指針のどこかに記載していきたいと思う。
- 委員 員： どこの地域も抱えている問題である。「この人が辞めると自治区・自治会が継続できない」というのはどこの地域でも非常に重大な問題だと思う。
- 委員 員： 同じ人が長く自治会長を務めることで、今までの事業内容や方法を変えたいが、変えられないという問題がある。会長が変わり、やり方を変えていこうとしているが、従前からのやり方を変えることができず、不満が出てきているという現状もある。祭りにおいても役員だけではできず、ボランティアでの開催を考えているとのことだった。
- 委員 員： 今までやっていた事業をやめるといふ地域も出てきている。役員の引継ぎの仕方はどこの地域でも問題だと思う。
- 事務局 長： 今後の自治区・自治会活動、まちづくり協議会の活動や課題をどこに記載するか、どのように記載するかは次回相談させていただきたい。
- 委員 長： どの地域にヒアリングを行ったということは指針に記載するのか。
- 事務局 長： 各地域に記載内容を確認した方がよいのかと思う。
- 委員 長： 確認は不要だと思う。いつ、どこにヒアリングしたかくらいは記載する方がよいと思う。どこの地域から具体的にどういった内容のヒアリングを行ったかは記載する必要はない。その辺りは整理していただきたい。
- 事務局 長： 公開する情報は日程と団体名くらいで問題ないと思う。
協働・共創と記載しているが、内容について協働と共創を分けて記載した方がよいのではと考えているがどうか。協働の概念と共創の概念が異なっている。構成上「Ⅰ 協働・共創の理念と方向性について」並びを修正させていただく可能性がある。その際には次回提案させていただきたい。協働、共創の範囲や形態の内容についても読みやすいように修正し、提案させていただきたいと思う。
- 委員 員： 了。
- 事務局 長： Ⅲ3 (3) 指定地域共同活動団体についてはすでにある団体が指定を受けることになり、新たな担い手の参加を促すことにはならないと思う。そのため、Ⅲ4 地域活動の最後の部分に「こういった方法もある」という形で記載する方がよいと

考えているがどうか。

- 委員 長： 新たな制度なので、今後に向けてということで記載してよいと思うが、内容を改めて確認する必要がある。今回確認した構成案から次回までに構成が変わっている可能性があるということで理解する。
- 委員 長： 用語の部分で「交流・交流会」をどこに記載するのか。どのように行政が支援しながら交流会を開催するのが気になる。
- 事務局 長： Ⅲの3の部分か、もしくはⅢの4で記載することも考えられる。
- 委員 長： 地域の活動を地域ごとでまとめ、その中で今後どういった交流会が必要か、学生の巻き込みという点もⅢの3に記載できると思う。指針の構成の大きな流れは意識しつつ、ヒアリングの結果をできるだけ盛り込んだ形で内容は丁寧に記載する方がよいと思う。交流会については記載するべきだと思う。
- 副委員 長： ヒアリングの結果が出ているだけではもったいない。三田全体の特性だとか、地域のまちづくり協議会ごとの特徴をマトリックスなどでヒアリング結果を表示する方がよい。これを踏まえると次の一手はどうすべきかを示せるようにしたい。
- 委員 長： ヒアリング結果を踏まえて、次に生きるところはどこなのかをしっかりと整理してほしい。
- 委員 長： 市民活動団体へのヒアリングはどうか。
- 事務局 長： 市民活動推進プラザへ市民活動団体の抱える課題などをヒアリングしている。その内容も指針に盛り込んでいきたいと思う。
- 委員 長： 協働事業提案制度にエントリーしている団体については認識しているが、エントリーしていない団体の声なども拾った方がよいと思う。
- 委員 長： ニュータウンは特に高齢化が進んでいる。その点も特に問題であると思う。
- 委員 長： ヒアリングに行くことで自分自身の勉強になった。
- 委員 長： 農村地域も様々なところ繋がっていた。ヒアリング結果を新指針にきっちり盛り込んでほしい。書ききれなければ付録的なものでヒアリング結果を示すのもよいと思う。今後生きるように取りまとめいただきたい。

(4) 次回の日程について

- 事務局 長： 次回の日程について説明。
- 委員 長： 了